



第41回部落解放智頭町

女性研究集会開催

6月23日(日)総合センター

今年の女性研究集会では、「お互いの人権を大切にしよう」をスローガンに、世界人権問題研究センター嘱託研究員の源淳子さんが、「部落差別と女人禁制を考えよう!」と題した講演を行いました。

「ジェンダーとは?」から始まり、DVや子どもの人権、穢れ観や宗教についての歴史から、女人禁制についてのお話をいただきました。



源さんのお話(一部)

・島根県奥出雲町にある浄土真宗の寺の長女として育ち、弟が生まれたとき曾祖母が街中に「男の子が生まれました。」と触れ回った時、自分の存在というものに疑問を持った。

・平安時代には宗教の影響から「穢れ観」が発生し、「穢れ」を排除することから差別が生まれ、仏教会においても女性を穢れた存在として、特定の寺院・霊場が女人禁制として女性の立ち入りを禁止し、科学が発達した現代においても女性の立ち入りを禁止しているところがあり、友人数人と奈良県南部にある大峰山の女人結界門を越えたとき、友人は「霊気を感じる。」「空気が違う。」と言っていたが自分自身は何も感じなかった。大峰山の女人禁制開放運動しているグループで女人結界門を越えたときは、誰も何も感じなかったことから、排除することがおかしいと感じるかは、人権問



題を学んでいるかの違いではないか、と思う。

・大相撲舞鶴巡業で、舞鶴市長が土俵上で倒れ女性看護師が土俵上上がったとき、場内アナウンスで「女性には土俵から降りてください。」と何度もあり、その後大量の塩が撒かれたことや、女性の宝塚市長が、土俵上で挨拶したいといっても伝統文化を理由に断られたことなど、人命よりも女人禁制を重んじる相撲協会、過去に女性力士がいたという事実がありながらも、「土俵上は神事である。」という相撲協会理事長の談

話で頑なに女人禁制を守ろうとしている。

・明治以降、戸籍制度の整備や旧民法などにより家制度が強化され、この家制度が天皇制国家を支える最小の共同体であり、この家制度により日本は夫婦別姓が認められない唯一の国家で、焼香順も家制度が残っている。

身近な例として、友達に焼香順を男女別なく年の順にしたらどうかといったところ、「無理」と言われ、何故かたずねると「世間・親戚が気になる。」と。今の焼香順だとジェンダーにならない。

最後に、「会場の皆さんに、この焼香順をどうするか大きな課題とします。」と話されました。身近なことに、おかしいと感じるか、おかしいと感じたら正していけるか、私たちに問いかける貴重な講演でした。

参加された皆さん、ありがとうございました。

